

ふるさと講座自然系第4回

「オジロワシ・オオワシ観察会」報告



観察ポイントの紹介など

毎年恒例となりましたオジロワシ・オオワシの観察会ですが、今年もたくさんのワシ達を観察することが出来ました。

☆風蓮湖

風蓮湖では、地元漁師のみなさんがチカ・ワカサギ・ニシンなどの氷下待網漁を行っています。周辺の森の木々にはオジロワシやオオワシをはじめカラス、トビなどが群れをなしてとまっています。

漁がはじまり網が引き上げられると雑魚は、その場で選別し捨てられることから、それを目当てに一斉に鳥達が飛び立ちます。特にワシの雄大な姿は、見るものを圧倒し、非常に好評でした。

☆走古丹漁港付近

氷が解けている湖面では、ハクチョウ、キンクロハジロ、アイサ、カモメなどが、観察することが出来ました。

天候も良く、鳥類の他に、エゾシカもたくさん見ることが出来ました。

来年度も実施予定ですので、是非ご参加ください。



先月号の編集後記で紹介しました小説「ブレイク、ブレイク、ブレイク」は、向井豊昭さんと麻田圭子さんお二人の共同執筆による「コラボ小説」です。『みづはなけれど ふねはしる』に収録されており、別海町図書館にも置いてありますので、興味のある方はぜひご覧下さい。

郷土資料館のお知らせ（3月）

- 休館日 3～4日・12日・17～18日・21日・26日・31日
- 開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 観覧料 一般個人 300円 一般団体（10名以上）240円 高校生以下は無料となります。

「加賀家文書」の調査研究から～その23

調査員 戸田 峯雄

一月から、まだ公開されていない文書を読み始めています。この文書は「蝦夷地」（今の北海道・サハリン・千島・歯舞諸島）が、東北地方の諸藩に幕府から分け与えられた時のものです。ちょうど、日本が近代になる10年程前、安政6（1859）年の出来事でした。今の根室地方が、会津藩と仙台藩の二つに分けられたのです。翌年から引き渡しが行われました。この引き渡しの時に、多くの文書が作られ、土地と共に渡されました。

この文書の中の一つに会津藩と仙台藩の領地の境を記した文書があります。ニシベツ川の古川尻（川口）からチャシコツ（別海中学校の所の高台）、更に内陸のシカルンナイ（西別川支流の然内川）が両藩の境となったのです。

ごく一般的には、川・山の頂・岬などが境になっています。別海町と根室市の境は風蓮川、標津町との境は当幌川になっていますが、この時の境は川は川でも古川（本別海から走古丹へ行く道の海側に沼があります。ここが古川尻なのです。）からですから、「ニシベツ川が境になった」というのは誤りで、「ニシベツ川」（シカルンナイ川から下流）は、会津藩の「シベツ領」となったのでした。

なぜニシベツ川は会津藩の領地になったのか。ニシベツ川は大昔から魚類の豊富な川の一つだったのです。それで、ニシベツ川のことを「豊漁の川」などと書いている書物もあります。

さて、話は変わりますが、加賀家文書館では、オープン以来毎年「歴史講座」を開き、今年度で7回目を終えました。今年度は「加賀伝

蔵と松浦武四郎」というテーマで、別海町の歴史を調べたり、実際に現場（風蓮湖のトウフト・ニシベツ古川尻・ニシベツ川の蛇行・チャシコツ遺蹟・バラサン・トコタン川等）に出かけて自分たちの目で確かめました。小学生も参加しましたし、ほとんどは町内の方々でしたが、中標津町、遠くは「松浦武四郎記念館」の館長さん、高瀬さんもはるばる参加されました。

なんと言っても、松浦武四郎は、「蝦夷地」の頃、隈無く6回も訪れており、中でも別海には4回立ち寄っています。3ヵ月程もかけて「武四郎」を調べました。安政6（1859）年の10月に江戸に住んでいた武四郎を会津藩士二人が訪れていることが判ります。その中の一人は「一瀬記一郎」という方で、「加賀家文書」では、会津藩の領地となった「ニシベツの古川尻からシレトコまでのメナシ領地理」「シレトコからシヤリとアハシリの境までのシヤリ領地理」「アハシリとの境から北見エサシの境までのモンベツ領地理」を内容とする『北辺要話』を記述しています。また、「場所請取役」として名を連ね、「シヤリ」に駐在し、明治に入って開拓使でも働いた方です（雑賀重村と改名）。

この二人が何の目的で武四郎を訪ねたか。その詳細は判っていませんが、「蝦夷地」における会津藩の領地が通達される一ヵ月前に、「蝦夷地」を知り尽くしていた武四郎を訪ねた目的も自ずと見えてきそうです。どんどん課題が山積みされていきます。

これからも、判ったことなどを多くの方々を知って戴くことを使命とします。

別海町郷土資料館だより No.92

発行日 平成19年3月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.gr.jp

編集後記

オジロワシ・オオワシの観察会、毎年その姿を観察しても飽きることはありません。こうした鳥が町内にいることは、とてもすばらしく、恵まれている環境だと思います。動物そして、私たち人間が住みよい環境がこの先、守られていくように願うばかりです。（石渡）